

# 平成 30 年度 大阪府中学生チャレンジテスト 結果と分析（東大阪市）

平成 30 年 9 月 6 日（木）に実施された「大阪府中学生チャレンジテスト（3 年生）」について、東大阪市の結果及び分析を公表します。

## ●調査結果について●

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

## ●調査目的●（大阪府教育委員会作成の実施要領より）

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

## ●調査概要●

実 施 日	平成 30 年 9 月 6 日（木）
実施対象学年	中学校 3 年生
実 施 教 科	中学校 3 年生：国語・数学・英語・理科・社会
調査実施生徒数	中学校 3 年生 国語：3531 人 数学：3533 人 英語：3535 人 理科：3544 人 社会：3538 人

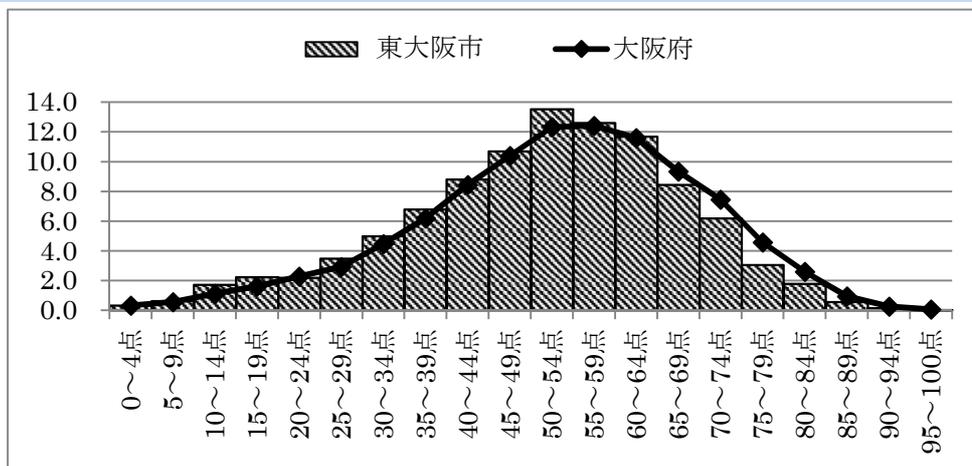
## 第3学年 国語

## ■平均得点

51.0点 (東大阪市)

53.0点 (大阪府)

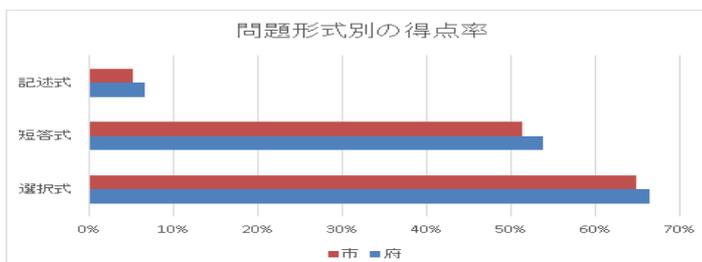
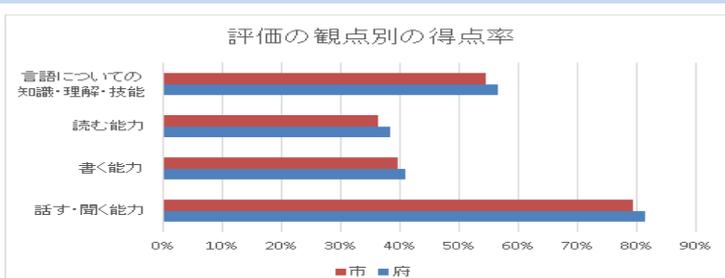
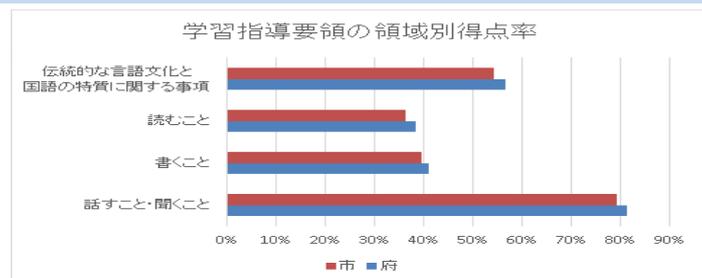
## ■得点別分布の割合



・50～54点をピークとする山型となっている。

・大阪府の分布に比べ、65点以上の分布が少ない。

## ■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



評価の観点別では、「話す・聞く能力」の得点率は高いが、「読む能力」や「書く能力」の得点率が低い。

## ■特徴的な傾向と対策

- ・文脈に即して漢字を正しく読む設問においては、「単純」（府との差  $-0.1$ ）、「絶え」（府との差  $+0.2$ ）、「親しみ」（府との差  $+0.6$ ）と、大阪府平均とほぼ同じか、少し上回っている。しかし、無解答率では、大阪府平均よりも開きが見られる。これまでに引き続き、日常的な反復学習・家庭学習などにより、確実な定着を図ることが求められる。
- ・事実や事柄が相手に伝わるように、説明や具体例を加えたり、工夫したりして書く設問においては、大阪府との開きが大きく、自分の考えについて根拠をもとに表現することに課題がある。記事を参考にして取り組みの報告をまとめる問題では、正答率が7.3%（大阪府9.2%）、図から得られた情報をもとにして補強する意見を書く問題では、正答率が3.2%（大阪府4.1%）となっており、無解答率についても大阪府との開きが見られる。言語についての知識・理解・技能の定着を図るとともに、大阪府提供教材等も活用しながら、授業を通して「言語能力の育成」に引き続き取り組むことが求められる。

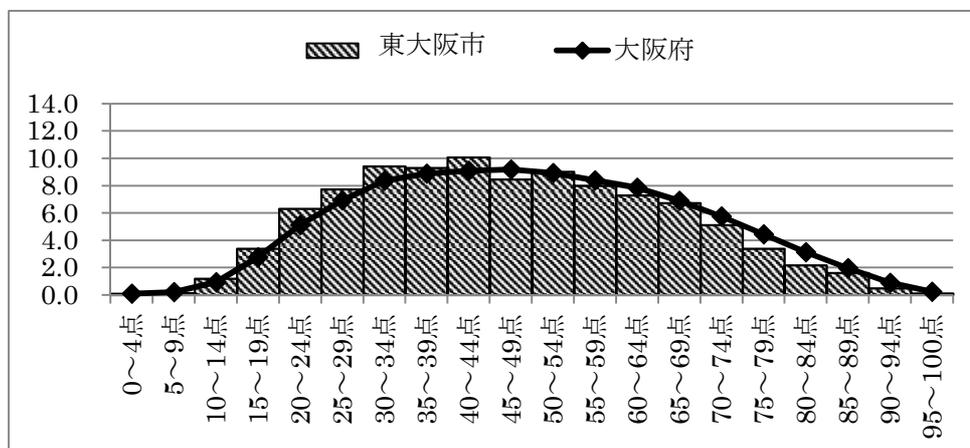
## 第3学年 社会

## ■平均得点

47.2 点 (東大阪市)

49.5 点 (大阪府)

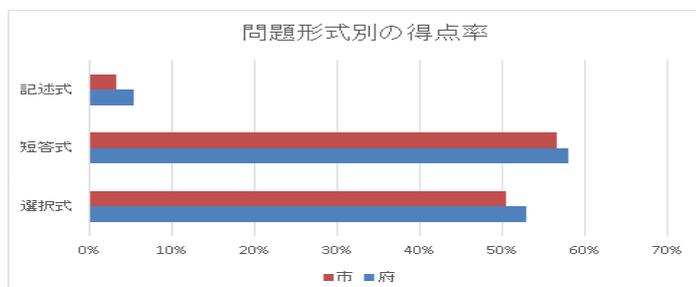
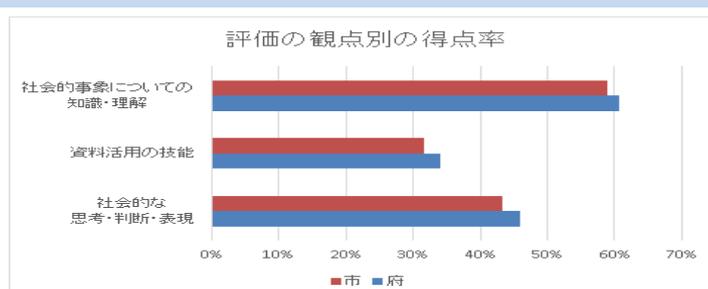
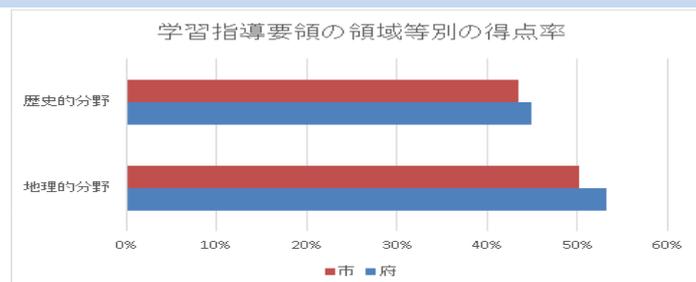
## ■得点別分布の割合



・40～44 点がピークとなるなだらかな山型となっている。

・大阪府の分布と比較して、55 点以上の生徒の割合が少なく、10～44 点の層が多い。

## ■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



評価の観点別では、「社会的な事象についての知識・理解」「社会的な思考・判断・表現」と比べ、「資料活用技能」の得点率が低い。

## ■特徴的な傾向と対策

- ・ヨーロッパ連合 (EU) 加盟国について、図を見ながら 2004 年以降の加盟国とそれ以前の加盟国とを比較し、EU の課題について書く設問では、大阪府 (29.4%) と比較して無解答率が高い (34.0%)。地図やグラフなど複数の資料から情報を適切に取り出し、資料に基づいて判断理由を表現する活動を授業などでさらに取り入れるなど、資料活用技能と言語表現を総合的に結びつけた活用力の育成が求められる。
- ・資料を活用して、資料中の表現がなされた要因となる二つのできごとの説明を書く設問においても、大阪府 (50.9%) と比較して無解答率が高い (56.9%)。歴史的な事象について、時代の流れの中で総合的に捉えることに課題が見られる。
- ・記述式問題 (2 問) の正答率は 3.2% (大阪府 5.3%) と最も低く、自分の考えを書くことに課題がある。社会的な事象についての知識・理解を深めるとともに、書く力の育成が求められる。

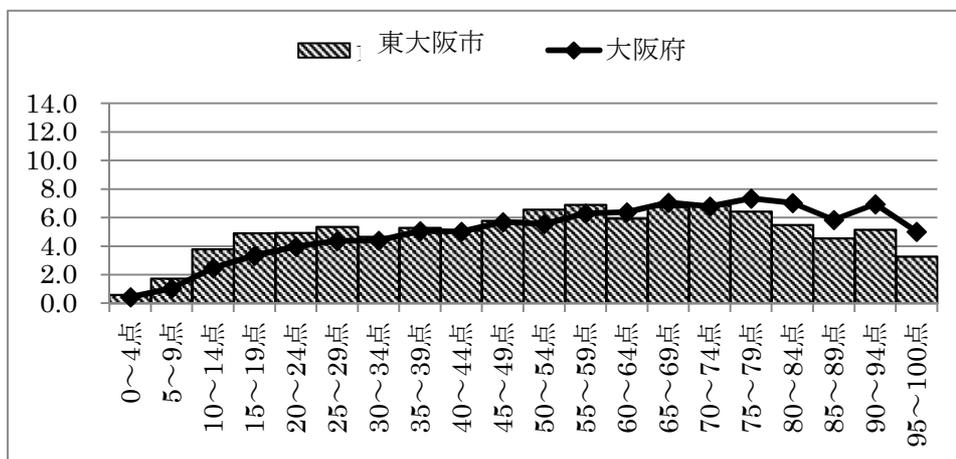
## 第3学年 数学

## ■平均得点

54.1点 (東大阪市)

58.9点 (大阪府)

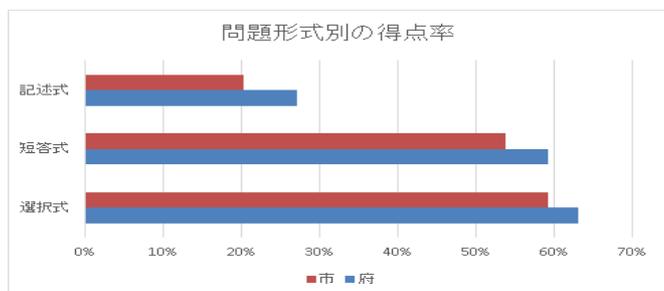
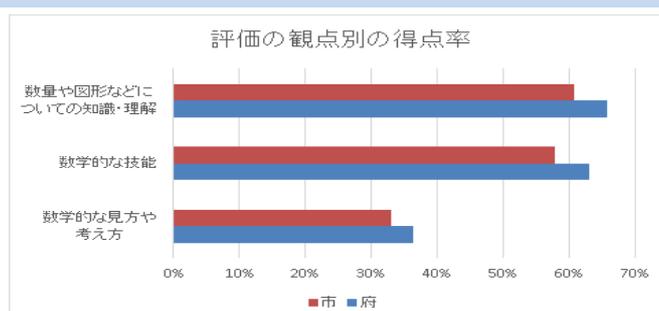
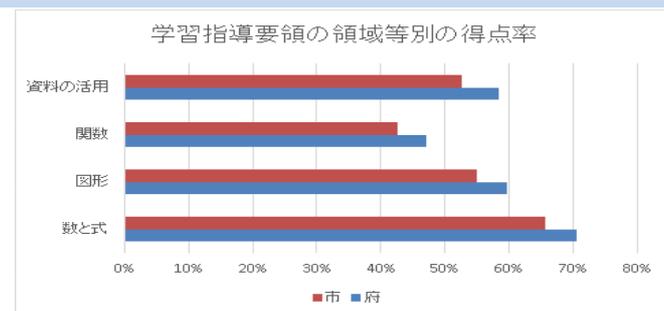
## ■得点別分布の割合



・大阪府の分布と比較して29点以下の生徒の割合が多い。

・大阪府の分布と比較して75点以上の生徒の割合が少ない。

## ■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別では、「数と式」「資料の活用」「図形」に比べ、「関数」の得点率が低い。

## ■特徴的な傾向と対策

- ・ **5** (2) 「相対度数の必要性や意味を理解している」かどうかを見取る設問は、全設問中、大阪府との開きが最も大きい (東大阪市 25.1% 大阪府 34.1%)。相対度数の必要性と意味について理解するためには、階級の度数をそのまま比較することが適切でないような問題を扱う学習活動が有効である。
- ・ **8** (4) 「グラフから情報を読み取り、事象に対応させて解釈し、2つの数量の関係をグラフに書くこと」ができるかどうかを見取る設問は、全設問中最も正答率が低い (東大阪市 7.8% 大阪府 10.2%)。グラフから必要な情報を読み取る力をつけるためには、問題解決において用いるグラフを事象に即して捉えなおす学習活動が有効である。
- ・ 全体を通して、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。日頃の授業から、数学的な表現を用いて自分の考えを「記述する」「発表する」機会を多く設け、それに対して評価することが大切である。

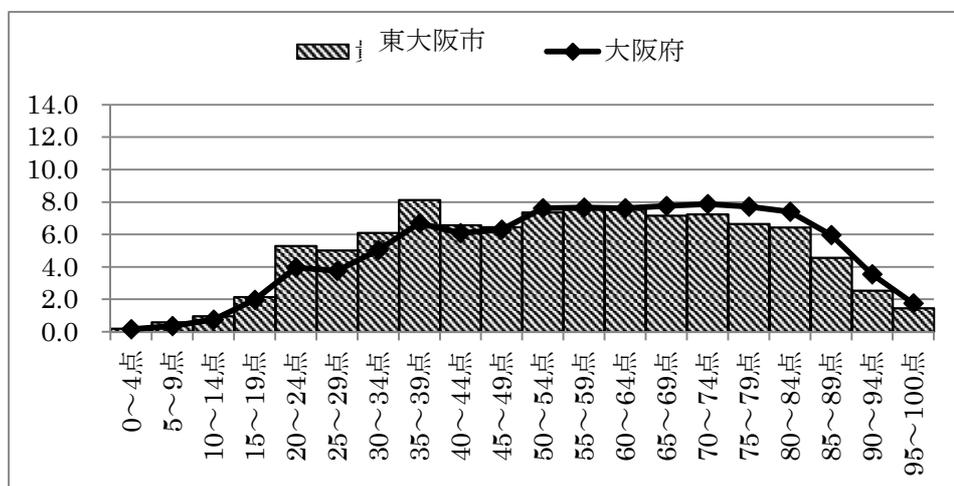
## 第3学年 理科

## ■平均得点

54.8点 (東大阪市)

58.0点 (大阪府)

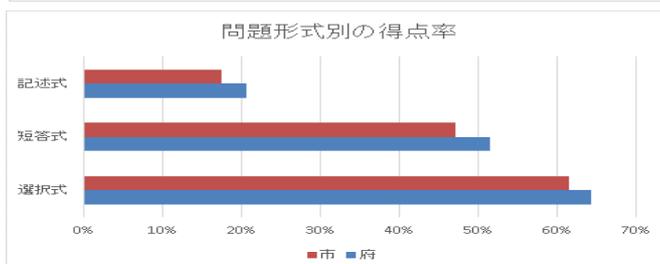
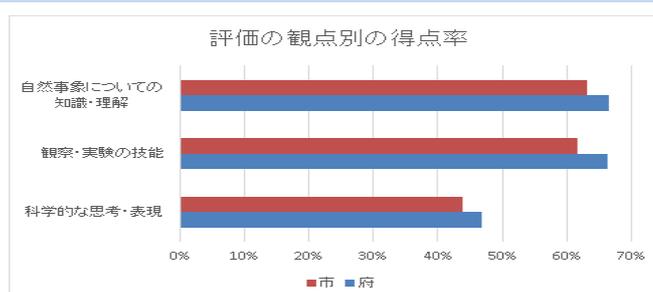
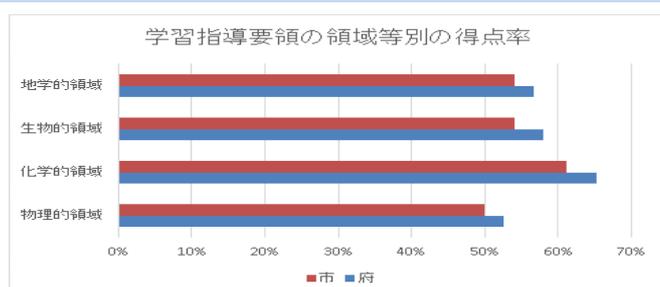
## ■得点別分布の割合



・35点～39点がピークとなっているが、50～74点まで得点別割合がほぼ同じ分布となっている。

・大阪府の分布と比較して、20点～39点の生徒の割合が多い。

## ■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別の得点率では、「化学的領域」が他領域よりも高く、「物理的領域」が低い。

## ■特徴的な傾向と対策

・「温暖前線が直線上を1時間あたりに移動する距離を求める」設問は、全設問中で、最も正答率が低い（東大阪市 7.1% 大阪府 9.4%）。グラフから温暖前線の1時間あたりの平均移動距離を考える設問であり、科学的な知識や概念を活用して、観察の結果を分析し、考えを導き出すことが必要となる設問である。授業においては、数ある情報の中から、どの情報を用いるのか適切に取舍選択し、自分の考えを説明していく活動が必要になっている。

・「交流の電流の特徴を選び、それを基に、コイルに電流が流れ続ける理由を「電磁石」「コイル」「磁界」の言葉を使って説明する」設問は、全設問中2番目に正答率が低い（東大阪市 10.3% 大阪府 12.4%）。コイルに誘導電流が流れ続ける理由を説明する設問であるが、「ワイヤレス充電のしくみ」という科学的な知識や概念を基にして活用を問う設問となっている。授業においても、学んだ知識や概念が実生活でどう結びついているのか実感させていく授業展開の工夫が必要となっている。

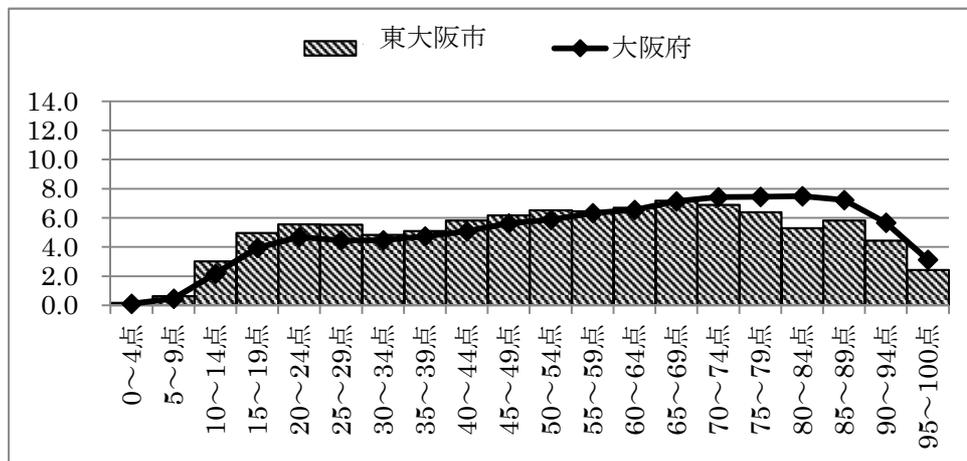
第3学年 英語

■平均得点

54.5点 (東大阪市)

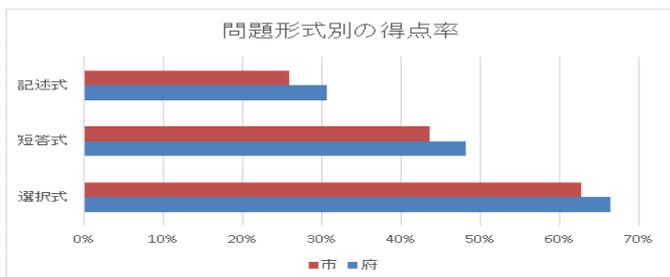
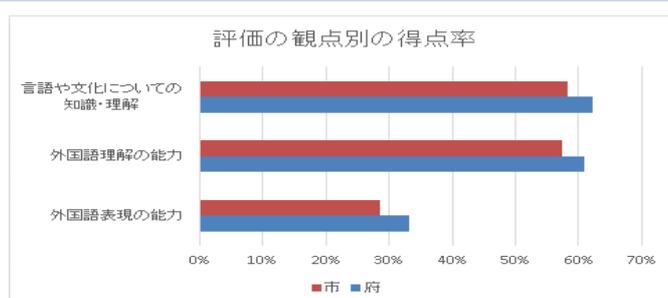
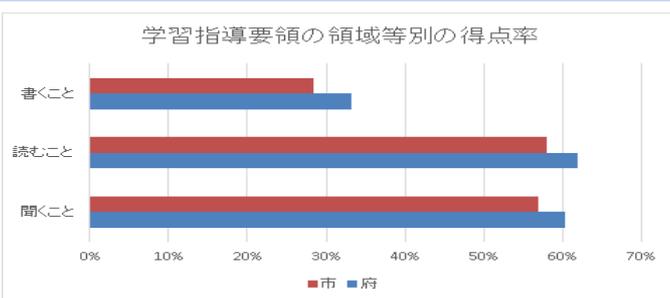
58.5点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・29点以下の生徒の割合が、大阪府の分布と比較して多い。
- ・大阪府の分布と比較して、75点以上の生徒の割合が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別では、「読むこと」「聞くこと」に比べて、「書くこと」の得点率が低い。

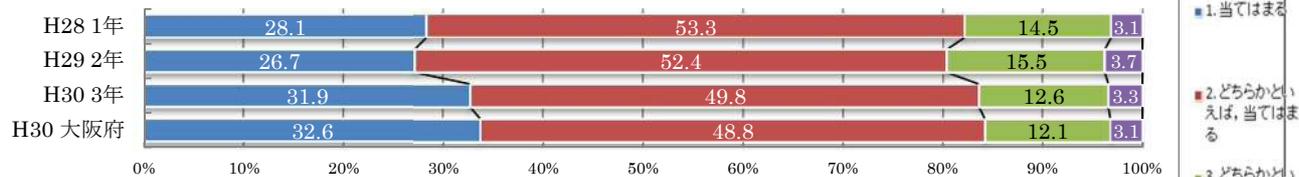
■特徴的な傾向と対策

- ・絵や地図を見て、適切な英文を書くことができるかを問う設問において、無解答率、正答率共に全設問の中で、大阪府との差が最も大きい。必要な情報を読み取り、それらを整理し、与えられた条件に従って適切な英文を書くことに課題が見られる。授業内外での書く活動がより一層求められる。
- ・基本的な文の仕組みや対応している文を理解しているかを問う設問において、適切な語句を選ぶことができていない。大阪府平均 52.7% に対して市平均 45% と全設問で大阪府との差が二番目に大きい。文脈の中で語彙を習得し、語彙をどう使用するべきか、実際の場面で表現できるよう指導改善が必要になる。

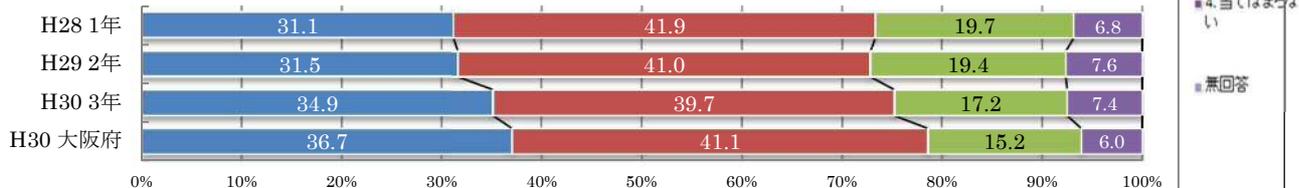
## アンケート結果

### ■ 中学校3年生（同一集団の1年時からの変化）

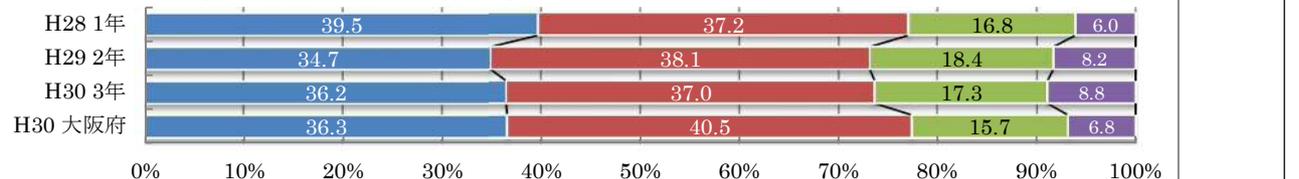
国語の授業の内容はよく分かる。



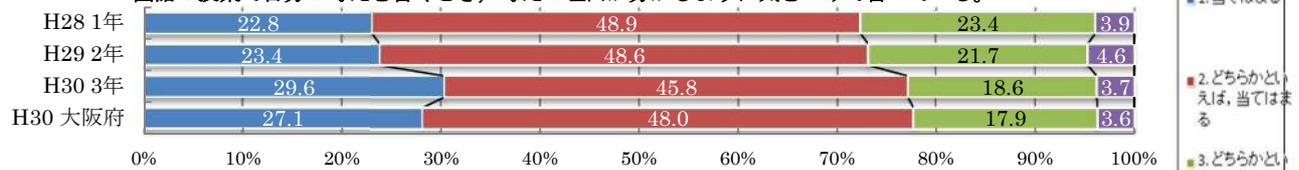
数学の授業の内容はよく分かる。



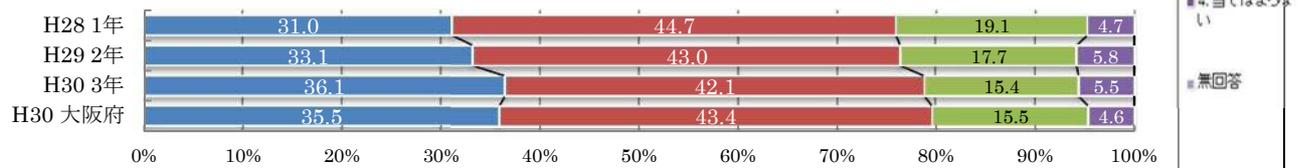
英語の授業の内容はよく分かる。



国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。



数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。



### ■ 特徴的な傾向と対策

- ・ 1、2年時と比較して、「国語・数学の授業内容がよく分かる」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、増加しているが、大阪府平均より低い。「英語の授業内容がよく分かる」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、2年時と比較するとやや増加し、大阪府平均とほぼ同じである。
- ・ 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いている」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。」に「当てはまる」と回答した割合は2年時より増加し、府平均よりも高い値である。
- ・ 各教科において「記述式」設問の得点率が低いことが、全教科共通の課題といえる。各教科の授業の中で理由や根拠をもとに自分の考えを書いたり、発表するなどの学習を多く設けることで、「書く力」「表現する力」の育成を教科の枠を越えて取り組むことが大切である。